
薬局別冊

September 2008
Vol.59 No.10

特集

**ライフサイクルからみた女性の
漢方医学的特徴
— 気・血・水と虚証・実証**

渡辺賢治

株式
会社 **南山堂**

ライフサイクルからみた女性の 漢方医学的特徴

— 気・血・水と虚証・実証

渡辺 賢治*

なぜ服薬指導に西洋医学的適応 でなく「証」が必要となるか

本稿の読者のほとんどが薬剤師であるが、漢方の服薬指導ほど困難なことはないと推察する。そもそも漢方薬は西洋医学的病理概念とかけ離れたところで形作られているので西洋医学的病名を無理にあてはめること自体が困難である。

例えば八味地黄丸という薬がある。保険適応は腎炎、糖尿病、坐骨神経痛、腰痛などと並ぶが、漢方医学的には八味地黄丸は「腎虚」の薬でありこれら西洋病名は腎虚のときにしばしばみられる疾患としてあげられているに過ぎない。このようなわけであるから医師が出した目標が、しばしばその漢方薬の適応疾患と異なる場合がある。例えば本特集にしばしば登場する加味逍遙散の適応症は、月経不順、月経困難、更年期障害などの婦人科疾患がずらりと並ぶが、もちろん男性に処方することもある。この場合患者が医師に問い合わせをしてくれればまだしも、薬剤師に問い合わせをした場合、皆さんはどのようにお答えであろうか？

漢方薬の服薬指導をするためにはやはりその薬物のもつ漢方的特色を知ったうえで服薬

指導をしなければならないと思っている。適応病名ばかりにとらわれてしまうと医師の処方意図と大きくずれてしまうこともあるからである。

本稿では女性疾患に対する漢方治療でとくに重要な「気・血・水」を中心に解説する。このような漢方独特のものの見方を「証」と呼ぶが、こうした「証」を踏まえて服薬指導をしていただければ幸いである。

「証」とはどのようなものか

漢方医学の診断法は西洋医学的診断と体系的に異なる。漢方診断法は病名を見きわめるものではなく、その病気を抱えている人に対して診断を下すのである。この方法が「証」である。「証」は「症」と書くこともあるが、西洋医学の「症状」と紛らわしいので「証」に統一されている。漢方の証の場合、ある病的状態に際して出現する複数の症状の統一概念である点では、西洋医学の症候群という考えに類似している。ただし症候群の場合は、それが診断すなわち病名決定に際して重要な役割を演じるが、ただちに治療法の指示につながるものではない。漢方の「証」の場合その決定には個人差も考慮されて決定される点が西洋医学との大きな違いである。さらに「証」の場合、それがただちに治療法の指示でもあるという

*慶應義塾大学医学部漢方医学センター センター長

点が大きな特色である。すなわち「証診断」というのは西洋医学の病名診断，治療指示の二段階を一段階で行う操作であるといえる。

もちろんこうした個人個人への治療薬の選定は長い歴史を経てその積み重ねで構築されていったものであろう。「証」を決める過程で①その薬剤が最大限の効果を上げる，という積極的な意味において，また②副反応を避ける，という消極的な意味においての2つの要素が考慮されたに相違ない。

恐らく後者の方がより目にみえる形で「証」という概念を作り上げていったものと考えられる。医師が漢方薬を処方する場合には適応症である西洋医学的疾患名よりも「証」を基に治療方針を決定する場合がある。日本東洋医学会の定める漢方専門医や漢方に慣れている医師ほど西洋医学的適応症に合わない使い方をすることがあり，その場合には西洋医学的適応とは異なってもきちんと「証」の服薬指導をして欲しいものである。

少し漢方を勉強している人たちはよく「漢方は鍵と鍵穴の関係である」ということを聞いたことがあるかもしれない。これはとくに急性疾患のときに重要な考え方である。急性疾患はまったなしなので投薬のタイミングが重要である。

漢方医学は時間軸を重視する医学であるといわれるが，かぜの処方にしても一律に何々，というものではなく，罹患してからの時間により用いる処方が明確に分けられている。しかしながら慢性疾患では急性疾患ほど厳密ではない。それよりもその人の体質的病態である気血水と虚実を重視する。

気・血・水とは

気・血・水は漢方における仮想的生理概念（正常な状態）とそれが破綻したときの病理概念である。要は生体には気・血・水の3つの要素が正常に機能していれば健康に保たれる，というものであり，さまざまな病態はこれらが正常に働かなくなったときに生じる，と考えたものである。筆者はこれを学生に教えるときに，昔の人になったつもりでものを考えるようにいう。この概念が作り出されたのは2,000年以上も昔のことである。滑稽な概念のように聞こえるかもしれないが，西洋においてはヒポクラテスの四体液説が有名である。関心のある人はぜひともご覧いただきたいと思うが，気・血・水と概念の発想は似ている。

気血水はともに体内を循環しており，それぞれがうっ滞，偏在することにより，さまざまな障害，疾患を引き起こす。病気の原因の1つは体内を流れ，また構成している気血水の異常によるものと考えている。

気は目にみえないが，みえるとしたら空気の流れ＝風としてである。古代中国では生死にを判断するのに真綿もしくは羽毛を鼻にもっていき，空気の出入りがあるかどうかで判定した。心電図もモニターもない時代である。息をしているかどうかで判定するしかなかったことは容易に想像できよう。そこから「気」は生命の根源との考えが出てきた。すなわち外から生命の根源である気を取り入れることが生きていることである。いったん外に目を移すと気(空気)が動くとき風になり，木の葉を舞いあがらせる。すなわち，気というのは動くものである，ということがわかる。そうすると気は体内でも動いていて，あちこち

に生命の源を巡らせていることが想像できる。古来「気」を表わす言葉は数多くある。例えば「気が抜ける」、「やる気がない」、「気を落とす」、「気を失う」、「気が若い」、「気が短い」などの言葉からも「気」という言葉の意味が想像できるであろう。

血はもっとわかりやすい。戦争で血を流すこともあったであろうし、もっと身近には食用の生き物を食べるときには当然血が出るので、血というのは身近な存在だったに違いない。けがをすると血が噴き出してくるので循環していることがわかる。血が流れれば貧血になり体から栄養が失われる。すなわち血は体を循環しながら栄養を運んでいることがわかる。過剰になっても病気になることは知られていて、古代文明圏ではどこでも瀉血療法が存在した。

それに対して水は少し難しい。血以外の体液が水である。例えば擦り傷などでは血液に混じって浸出液が出てくる。嘔吐をすれば血でないものが体内から出てくる。血液以外の水があることは古代の人たちにもわかっていたに違いない。このように昔の人になったつもりでいろいろと想像しながら考えると一見滑稽にみえる病理概念も理解がたやすくなる。

1 気の異常

上述のように気は「人を生き生きとした状態に保つのに必要なもの」である。気の異常には気虚、気うつ、気逆(気の上衝)がある。

1 気虚

根元の気(元気)が全身的に不足している状態とされ、その症状は胃腸機能低下などにより、全身的に体力、気力のない状態と理解できる。症状としては元気がでない、気力がない、体がだるい、疲れやすい、食欲・意欲が

ない、日中の眠気など(とくに食後眠くなる)、などがある。

2 気うつ

気は体内を流通しており、その流れが全身的にうっ滞すると「気うつ」になるとされる。症状としては、頭重感、咽喉がつまる、胸苦しい、不眠、四肢のだるさ、などがある。

3 気逆

気の流れが逆向し、行き場を失った気が上につきあがってくる状態。症状としては、のぼせ、動悸、頭痛、ゲップ、発汗、不安、焦燥感、顔面の紅潮などがある。

2 血の異常

血は、現象的には血液のことであり、気とともに全身を巡り、各組織に栄養を与えるものである。感覚で捉えにくい気に比べて、血の方は人類の発生とともに知られていたはずである。

1 血虚

血の異常には血液が栄養を運べなくなることによって起こる種々の障害を指す。症状としては、爪が脆い、髪が抜ける、貧血、集中力低下、こむら返り、過少月経などである。

2 瘀血

循環障害、とくに末梢循環障害によって起こる種々の障害を指す。症状としては口乾、痔、月経異常、唇や舌の暗赤色化、色素沈着、静脈瘤、細絡(毛細血管の拡張)、目の下のクマ、腹部所見などがあげられる。

3 水の異常

水とは血液以外の体液一般を指す。このうち、生理的体液を津液といい、病的な非生理的体液を痰、飲または痰飲と呼んでいる。

① 水毒

水の偏在の異常を水毒と称して、めまい、立ちくらみ、頭重感、乗り物酔い、悪心、下痢、舌歯痕、浮腫などの症状が出る。

女性の一生からみた漢方医学的特徴

女性は男性に比べると性ホルモンの影響を受け、証が変化しやすい。月経というものもつ意味が大きく、さらに妊娠、出産において女性の体は劇的に変化する。こうした変化は男性には少なく、女性の漢方治療を行う際には必ずライフサイクルと関連して証の診断を行う必要がある(図1)。

女性の一生における変化は古代より関心が高かった。紀元前後の古代中国の書である『黄帝内経素問靈樞』には女性のライフサイクルを7年ごとに記載しており、一方男性は8年ごとの記載となっている(表1)。女性のライフサイクルをみてわかるように、現代とほとんど大差ない。ちなみに2,000年前のこの本のなかでも「現代人は不摂生がたたって長生きできない」と昔はよかったといっているのも、いつの時代でも変わらないと思うものである。性ホルモンの変化により劇的に証が変化する女性の体の特徴を踏まえて治療が選択されるが、とくに生殖可能な年齢では瘀血が問題と

なることが多い。瘀血は末梢循環障害によって起こる種々の病態を表す言葉である。症状としては口が乾く、痔、月経異常、唇や舌の暗赤色化、色素沈着、静脈瘤、細絡、目の下のクマ、腹部所見などがあげられる。これらを女性のライフサイクルにあてはめてみる(表2)と、月経困難症や月経不順を呈す場合は多くが瘀血の所見を伴っている。妊娠すると静脈瘤や痔になるがこれも瘀血の所見である。子宮が大きくなるにしたがって骨盤内の静脈が圧迫され、静脈瘤や痔を発症する。高齢になると下肢の色素沈着や毛細血管が浮き出てくる(細絡)が、これも瘀血である。女性の一生には瘀血は欠かせない証である。

血虚を女性のライフサイクルに照らしてみると出産後には髪の毛が抜けたり皮膚がかさついたり目がかすんだり、という血虚症状が現れる。また血虚は不正出血や子宮出血で過多月経になると貧血をきたし血虚となる。また高齢になれば皮膚のかさつきなど再び血虚症状を呈する。

水の異常も女性のライフサイクルと関係が深い。若い女性でむくみに苦しんでいる人も多いと思う。「みずみずしい」という表現があるように年齢が若い方がみずみずしいのである。通常は「瑞々しい」と書くが「水々しい」ともあて字をする場合がある。年齢とともに乾

図1 女性のライフサイクル

0歳	幼児期		気血水の異常
20歳	小児期 思春期	初経	瘀血
45歳	性成熟期	妊娠・出産・育児	瘀血・水毒・血虚
55歳	更年期	閉経	気逆・気うつ
85歳	老年期		血虚・気うつ

表1 『黄帝内経』にみる男女の発育

●女性の発育

7 歳	腎気盛んになり、歯がはえかわり髪が長くなる。
14 歳	天癸(てんき)至り、任脈通じ、太衝の脈盛んになり、月経が始まり、子供を作ることができる。
21 歳	腎気平均し、新牙生じて成り、身体が成熟する。
28 歳	筋骨堅く強く、頭髪のび揃い、もっとも充実する。
35 歳	手足の陽明経が衰え、顔の色艶が悪くなり、髪が抜け始める。
42 歳	手足の三陽脈が上部より衰え、顔の色艶が悪くなり、髪に白いものが混じる。
49 歳	任脈空虚により、太衝の脈衰え、月経は停止する。

●男性の発育

8 歳	腎気盛んになり、歯がはえかわり髪が長くなる。
16 歳	腎気が盛んになり、天癸が充足し、精気は充足し精液を出すことができるようになり、女性と性交をもつことが可能となる。よって子供を作ることができるようになる。
24 歳	腎気が体中を巡るようになる。このため、筋骨はがっしりとし、歯が揃い、智歯も生えるようになる。
32 歳	筋骨はいよいよ盛んになり、筋肉が豊かになる。
40 歳	腎気は衰え、このため、髪や歯が抜けるようになる。
48 歳	上方部の陽気が衰え、顔はやつれ、髪やひげが白くなり始める。
56 歳	肝気が衰える。このため、勃起不能をきたすようになる。天癸は竭し、精気は不足し、腎臓は衰え、身体は皆柔軟性を失う。
64 歳	歯や髪はなくなる。

(黄帝内経「上古天真論」より引用)

表2 女性のライフサイクルと気血水の異常

	気血水の異常	主な症状	女性のライフサイクルでみられる時期	
気の異常	気虚	元気が出ない、気力がない、体がだるい、疲れやすい、食欲・意欲がない、日中の眠気(とくに食後眠くなる)		補中益気湯、人参湯、四君子湯、建中湯類、半夏白朮天麻湯
	気うつ	頭重感、咽喉がつまる、胸苦しい、不眠、四肢倦怠感	マタニティーブルー、更年期、老年期	香蘇散、半夏厚朴湯、柴朴湯、
	気逆	のぼせ、動悸、頭痛、ゲップ、発汗、不安、焦燥感、顔面の紅潮	月経前のイライラ、更年期のホットフラッシュ	桂枝湯、桂朮甘湯、苓桂甘藶湯
血の異常	血虚	爪がもろい、貧血、集中力低下、こむら返り、過少月経、皮膚のかさつき、白髪、脱毛	出産後、不正出血、子宮筋腫、老年期	四物湯、芎帰膠艾湯、十全大補湯、人参養栄湯、加味帰脾湯
	瘀血	口乾、痔、月経異常、唇や舌の暗赤色化、色素沈着、静脈瘤、細絡、目の下のクマ	月経異常、妊娠	桂枝茯苓丸、当帰芍薬散、桃核承気湯、大黃牡丹皮湯、
水の異常	水毒	めまい、立ちくらみ、頭重感、乗り物酔い、悪心、下痢、舌歯痕、浮腫	月経前のむくみ・頭痛	五苓散、真武湯、防己黄耆湯、茯苓飲、小青竜湯

燥してくるので、水毒は若い人によくみられる。

更年期にもいろいろな症状が出現するが、不安感や不眠は気うつ症状であり、ホットフラッシュは気逆である。ホルモンの急激な変化に伴い血の異常や気の異常を現しやすいのが更年期障害である。

女性の性周期から見た漢方医学的特徴

男性と異なり女性の場合は性周期によって証が異なる。月経開始から排卵までの低温期と排卵から次の月経までの高温期では女性の気血水の証はまったく異なる場合がある。月経前になるとむくんだり、頭が重くなったり水毒症状を呈する人が多い。車酔いや立ちくらみなども水毒症状である。月経前症候群では気分が落ち込むが、気うつになることもある。イライラして気逆を呈し、他人と衝突することが増える人もいる。この時期には食欲が旺盛になることが多いが、逆に気虚症状を呈して食欲不振になる人もいる。多くの人がこの時期便秘がちになり、月経開始とともに下痢になることが多いが、逆に月経前に下痢になる人もいる。

疾患からみても性周期に影響されるものが多い。アトピー性皮膚炎は皮膚表面の炎症が熱をもっている場合には高温期、とくに月経前に悪化する人が多い。片頭痛は水毒と関連しているため月経前後に頻度が上がる。ニキビも月経前に悪化する人が多い。

こうした性周期による変化を踏まえて治療計画を立てる。月経前にむくみやめまい、頭痛があれば水毒徴候が強いので普通の薬に五苓散を加える。当帰芍薬散は五苓散の構成生薬を含んでいるが、日頃当帰芍薬散を服薬し

ている人に月経前だけ五苓散をさらにかぶせることもある。また月経前の便秘には瘀血症状も強くなっているので桃核承気湯を量を加減しながら服薬してもらうことも多い。

このように性周期によって漢方薬も変えていくのが男性と異なる大きな特徴の1つである。

虚実

女性の漢方治療を理解するうえでも気血水とともにもう1つ重要な要素は虚実である(表3)。同じ瘀血の症状があったとしても虚実が異なると処方異なるので、それを読み取ることが重要である。例えば桃核承気湯は実証の女性に処方される薬であり、虚証の人には向かない。これは前述で記載した「副反応を避ける」という消極的な意味において、重要である。桃核承気湯は大黄の入っている処方である。虚証の人が服薬するとひどい下痢をきたすか腹痛をきたすことがあり、合わない。瘀血を治療する処方のなかでもっとも実証の人を

表3 虚実

	実証	虚証
体型	筋肉質	痩せ、水太り
活動性	活発	消極的
栄養状態	良好	不良
皮膚	光沢・つや	さめ肌・乾燥
筋肉	発達良好	発達不良
消化吸收	大食・食べるのが早い	少食・食べるのが遅い
体温調節	季節に順応	夏ばて・冬は疲れる
声	力強い	弱々しい
汗	汗かき	汗をかきにくい、寝汗
睡眠	短時間で熟睡	眠りが浅い、食後眠くなる

治療するのが桃核承気湯であり、やや実証の人は桂枝茯苓丸であり、虚証の人は当帰芍薬散がふさわしい。このように同じ気血水の異常でも虚実によって薬が異なる。逆にいうと処方された漢方薬からその人の虚実が推察できる。

方医学的診断である『証』の変化とその対処につき簡単に述べた。とくに「気」「血」「水」は性周期のなかでも、また女性の一生のなかでもホルモンの影響を受けて劇的に変化する。こうしたことを念頭におきながら処方を読み解き服薬指導に役立てていただければ幸いである。

さいごに

本稿では女性のライフサイクルにおける漢



新しい小型機械 “第24号鉢傾斜型”が 出来ました

《カタログ贈呈》

攪拌・混合・ねり合せ作業を精密に組み合せ、貴重な薬剤をムラなく安定して製造する機械として、大学医学部、病院、薬局にて長年ご愛用頂いています。小型石川式攪拌擂潰機にウォーム式機構の第24号型が開発され、ご好評を頂いております。

**AGA型用に
高純度アルミナ鉢・杵
新発売!!**

加熱型・冷却型もあります



標準第24号機に比べ

- ①ずっと静かな運転
- ②鉢をハンドルで傾斜出来ますので鉢・杵の着脱が容易
- ③大型機と同じウォーム機構ですから一段と安定した作業を致します

用途——

軟膏・散薬・顆粒・
ローション・パップ剤・
リニメント剤

株式会社 石川工場

〒135-0053

東京都江東区辰巳1-1-8

TEL 03-3522-1018 / FAX 03-3522-1017

http://www.ishikawakojo.jp